

編集後記

●金俊和・下水道処理施設管理業協会会長にメッセージをお願いしました。人口減少の時代に入ったわが国で、これからの社会資本整備はどうするべきか、維持管理業に携わる者はどのように考えるべきなのか。これに対して金会長は市民や受益者に近い「開かれた協会」を掲げ、新たな展開を模索していくとしています。

●本機構の取り組みの一環である新技術セミナーの基調講演の抄録を掲載しました。内容は、東京大学・滝沢智教授による「ストックマネジメントの現状と展望」。老朽化した下水道施設の更新計画を策定する際に参考となるガイドライン策定のために設置した「下水道施設のストックマネジメント手法に関する検討委員会」の委員長として手腕を振るった滝沢教授は、アセット導入により期待される効果や必要とされる意識改革などについて触れています。

●エンジニアングレポートは、「亜臨界水処理（水熱処理）を用いた下水汚泥のエネルギー転換及び減容化」「下水処理場施設における合成木材製覆蓋更新」。前者は汚泥中に含まれる有機物を低分子化し、高温消化で減量するとともに発生した消化ガスを運転に必要なエネルギーを賄うもので、既存下水処理場を実証プラントを設置して汚泥減量効果を検証。後者は下水処理場で長期使用された合成木材製覆蓋の劣化挙動について、性能試験により得られた知見から最適な更新手法をとりまとめました。

●トピックスでは、北九州市・日明浄化センターに

開設した「ウォータープラザ北九州」を取り上げました。同施設は高まる水循環システムへのニーズを捉え、MBRによる下水処理とRO膜による再生水の供給、UF膜とRO膜による海水淡水化の技術を組み合わせ、さまざまな水利用を提案するという画期的な実証実験施設です。国内はもちろん、海外からの視察も多い同施設は将来、日本におけるウォーターハブとしての役割も期待されています。

●インプット・アウトプットは亜臨界水処理について研究内容を発表したWEFニューオリンズおよび、リン資源化について2テーマを発表したアメリカ・フロリダ州のNutrient Recovery and Management 2011への参加報告です。これら研究発表のほか前者では984社が出展する展示会を、後者では湿地帯を利用した雨水排除エリアなどの視察の知見も寄せられています。

●現在、我が国では大都市を中心に全国191の都市で合流式下水道が採用されています。越流水には多くの夾雑物が含まれていますが、今回のユーザーレポートで紹介する水面制御装置は、雨水吐き室からの雨天時越流水に含まれる夾雑物の流出を極力防止するものです。市内全47カ所の雨水吐室に水面制御装置を導入することを決めた函館市水道局を訪ね、その特長等についてまとめました。

(編集委員一同)

表紙の 写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子供の写真をシリーズとして紹介しています。写真のお子さんは、北九州市建設局下水道河川部水環境課に勤めている伊藤智則さんの姪の星野恋杏（こあん）ちゃん（5歳）と甥の星野大聖（たいせい）くん（3歳）です。

この写真は、家族そろってお出かけしたときに、市内を流れる紫川をバックに撮った一枚です。姉の恋杏ちゃんは最近、文字の読み書きができるようになって、いろいろな本に興味を持つようになりました。4月から保育園に通いだした弟の大聖くんもお姉ちゃんの横で本をのぞき込んでいるそうです。小学校の入学式や運動会が待ち遠しいですね。

題 字

財下水道新技術推進機構会長・中村満義
(鹿島建設株式会社代表取締役社長、(社)日本
土木工業協会会長)の揮毫によるものです。

下水道機構情報

Vol. 5 No. 14
2011年4月〈春季号〉

平成23年4月25日発行 発行者 中村満義
編集者 石川忠男
企画者 江藤隆

編集委員：神原 浩／井上 茂治／永橋 尚男／
松葉 秀樹／竹内 徹也／南 政慶／深尾 俊示

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512